

SIMCO通信

令和6年12月17日
第165号 発行
営業グループ 神谷 S-1グループ 田村

今年も早いもので、残り1ヶ月になりました。毎年今年こそは〇〇をやろう!と決めて新年を迎えますが、いざ振り返ってみると忙しさにかこつけて、大した事をやってないと毎年反省している次第です。

ここで宣言します!「自宅の庭に剪定した木々を綺麗にかたずける事を。」と言っても、もの凄い量があるので、足腰壊さないように時間をかけて実施したいと思います。

新型フォークリフト



11月中旬に新しいフォークリフトが納入されました。メーカーの営業マンから「以前の車両よりだいぶ進化しましたよ」と説明がありました。ここで一部紹介したいと思います。

密閉湿式ブレーキ

ブレーキ部分の内部を油で密閉している為、粉塵等の侵入がなく、常に安定したブレーキ制動を發揮。メンテナンスコストも軽減。

アクセルワンペダルモードを標準搭載

アクセルペダルだけで、加減速・停止が出来るモード。アクセルペダルからブレーキペダルへの踏み替え回数が大幅に減る為にオペレーターの疲労軽減に貢献します。

旋回車速制限

ステアリング量から旋回半径を検知し、車速を自動制御。

当社の扱うフォークリフトは重要で、普通の運搬以外の動作が要求されます。

その為、消耗部品の劣化頻度も高く、それを少しでも軽減するには、日頃の点検は欠かせません。

自分のマイカーの様に丁寧に扱い、無理な動作をせず大事にしなければなりません。

これも貴重な財産です。



他部署体験



S-1作業風景

私は曲がり矯正担当をさせて頂いていますが、現場作業を行っている方が「用事があるので焼入れの補助作業に入ってもらいたい」と言われ、数年ぶりに扱うことになり、緊張とスムーズに作業が行えるか不安になりました。

S-1リーダーからレクチャーを受け、加熱炉の治具をフォークリフトで引っ張り出す作業があるのですが、炉の中に治具が前後に入っている状態で、フォークリフトの爪の角度を調整しながら引っ張り出します。特に2枚目の治具を引き出す際に、長爪のアタッチメントを付けて行うのですが、爪が長くなった分、角度調整がとても難しいと感じました。

見るのと実際に作業をするのは大きな違いがあったので、改めて作業の難しさを痛感致しました。

営業グループ 神谷

早出作業

先月、多能工教育の一環として、1週間の期間、早朝の3時に出勤して、炉への点火や温度管理など、焼入れ作業が始まる前の準備の指導を受けました。

普段は朝7時に出勤して、1回目の焼入れ作業を行います。その時間に製品が処理温度まで加熱され、すぐに焼入れが行えるようにする必要があります。温度帯によってはパーナーの点火の様子に常に気を配らなければならないなど、今まで気づけなかったことも知ることができました。

慣れない作業も多かったですが、いつかは早朝の作業も1人で出来るようになりたいと思います。



103万円の壁

最近よくニュースなどで聞くようになった「103万円の壁」ですが、「103万円の壁」とは、年収が103万円を超えると所得税が課されることを指しています。所得税には、家族構成などに応じて様々な「控除」が適用され、年収から控除分を引くことで課税対象となる額が決まります。労働者は、103万円を超えた所得分から所得税が発生する仕組みとなっています。

学生の場合、年間の収入が103万円を超えると、自分の所得税だけでなく、親などの扶養者の所得税や住民税が増えることになります。

税制上の壁のほかに社会保険上の壁も存在するため、パートタイマーやアルバイトで働き、配偶者控除を受ける人は、年末になると就労調整を行うケースが見られます。

103万円の壁の他にも、税制上や社会保険上の様々な「年収の壁」があり、主な「年収の壁」は以下のようなものがあります。

100万円の壁	住民税の課税対象となる。
103万円の壁	所得税における配偶者控除から除外され、配偶者特別控除の対象となる。
106万円の壁	健康保険適用事務所において、保険加入義務が生じる。
130万円の壁 (160万円の壁)	健康保険の扶養対象ならびに国民年金第3号被保険者から除外される。扶養対象者の年収が130万円以上だと、自ら国民健康保険や国民年金第1号に加入することになるため、年収が160万円を超えないと手取り額が増えない。
141万円の壁	配偶者特別控除からも除外される。



○編集後記○

いわゆる「年収の壁」について調べてみましたが、思った以上に複雑な制度だなあと感じました。上に書いた内容はあくまでもざっくりとした概要で、書ききれなかった細かい条件や例外などもたくさんあるので、もし興味があれば調べてもらえればと思います。もし、いわゆる「103万円の壁」が引き上げられることになれば、全ての労働者の手取りが増えることになるので、実現してくれたら嬉しいなあと思っています。